

# ENEOS スーパー耐久シリーズ2026

## Empowered by BRIDGESTONE

第2戦 スーパー耐久 in 鈴鹿サーキット



**apr**  
*Racing Constructor*



**ENEOS スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE**  
**第2戦 スーパー耐久 in 鈴鹿サーキット**

**開催地：鈴鹿サーキット(三重県)／5.807km**

**4月18日(予選)**

**天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：7,000人**

**4月19日(決勝)**

**天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：10,000人**

# 予選まで苦戦を強いられるも、決勝では我慢の走りが実り、3位で表彰台に上がる

2026年もaprは、全7+1戦で争われるスーパー耐久シリーズに、FIA-GT3で競われるST-Xクラスに臨む。「DENSO LEXUS RC F GT3」には、Aドライバーの永井宏明選手、Bドライバーの蒲生尚弥選手、Dドライバーの嵯峨宏紀選手は引き続きドライブする一方で、小河諒選手がCDドライバーとして起用されることになった。4月18～19日に行われるシリーズ第2戦は、鈴鹿サーキットが舞台。「SUZUKA 5時間レース」として、1戦休みのスキップクラス、ST-5F/Rクラスを除9クラス混走の5時間レースとなる。なお、今大会は蒲生選手がドイツ・ニュルブルクリンクで行われるレースに出場するため欠場。Bドライバーは小河選手が務めることになっている。前回のもてぎでは2レース開催となり、ST-Xクラスはそのいずれにも出走。予選では2番手を獲得し、レース1では優勝！ 続くレース2はST-1クラスを含めたリバースグリッドとされたため、7番手からの発進となったものの、2番手にまで浮上したところでミッションが音を上げてリタイアという、明暗がはっきりと分かれる結果となっていた。しかしながら、今年のST-Xクラスは8戦での戦いとなり、先はまだ長い。レース1の勢いからすれば、巻き返しは十分可能であるはずだ！

## 公式予選 4月18日(土)14:35～

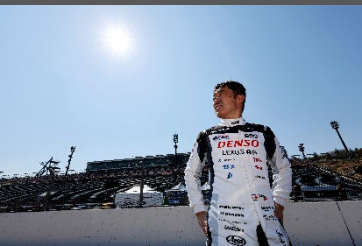
木曜日のスポーツ走行から走行を開始した「DENSO LEXUS RC F GT3」だったが、このオフに改修された西コース路面と、持ち込みのセットがマッチせず。金曜日の専有走行も合わせ、普段より多くピットストップを繰り返すこととなった。幸いだったのは、このレースウィークは雨の心配がなく、ドライコンディションが終始保たれていたこと。さまざまな変更、トライを行い続けられたことで、ようやく土曜日午前のフリー走行には正しい方向性を見出せるようになっていた。

また、最も得意とするホームコースであり、しっかりマイレージを稼いでいたことで、永井選手がライバルとする、ジェントルマンドライバーに対して常に勝る走りだったのが頼もしい限り。Aドライバー予選に臨んだ永井選手は、アウトラップともう1周を入念にウォームアップに充て、行ったアタックで2分3秒865をマーク。続けてのアタックこそ短縮は果たせなかったものの、トップから1秒と遅れの3番手につけた。

続くBドライバー予選では小河選手が計測1周目からアタックを開始し、まずは2分2秒522を記すと、次の周には2分2秒427にまでタイムアップ。LEXUS RCF GT3の限界を極めたものの、最新のFIA-GT3車両の限界は、さらに高みに達していたようだ。小河選手の渾身のアタックにも関わらず、トップとの差は2秒にも……。合算タイムでは4番手に甘んじた。

続いて行われたCDドライバー予選では、嵯峨選手がユーズドタイヤを履いて決勝セットのチェックを行い、2分3秒533を記録するも、エンジンから異音がするとのコメント。





## 永井宏明選手

昨日からあまり状況は変わらずというか、ちょっとバランスが合わせられず、エンジンのレスポンスも良くなかった事もあり、自信をもって挑んだ予選でしたが沈んでしまいました。決勝は4番手からスタートなんですけど、しっかり、距離もあるので、その中でチャンスを作っていけるように、チームと一緒に頑張ります。



## 小河諒選手

計測1周目から行きました。予定どおりで、去年もこのぐらいの温度でアウトプッシュしていたようなので、僕らも今回、路面が良くなったということで狙って行って、プッシュ、プッシュ！ タイムが出たのは2周目でしたが、それをトライしました。ただ、まだちょっと、今週初めてのニュータイヤだったので、そのグリップに合わせきれなかったところとか、車のバランスをうまく合わせられなかったところとか、反省点はいっぱいあります。ですが、車のポテンシャルとしては、僕は持てる力を出しきれたと思うので、そこに関して悔いはないんですけど、セットアップとかの面で、もっとできることはあったんじゃないかと、まだ明日まで時間あるので、もうちょっとチームと考えてみます。今回、蒲生選手がいないので、しっかり次の24時間まで、ポイントをつないでいけるように走りたいと思います。。



## 嵯峨宏紀選手

乗り始めから、ちょっと嫌な音がしたんで、ちょっと変かなと思っていたんですけど、とりあえずエンジンに問題があることが後で分かりました。それは置いておいても、決勝向けのテストをしましたが、まわりがちょっと速いから、ちょっときついですね。悪くはないんですけどね、自分自身もそんな悪い走りはしていないし。ただ、僕らの車の中での話で、相対評価になっちゃうので……。決勝のタイムは安定すると思うんですが、そのタイムのレベルがまわりと比べると、『どうなの？』という感じはあるので。それでも表彰台には乗りたいです、次が天王山ですから。

## 金曾裕人監督

流れは悪くないし、車のセットもそれなりに見えてきています。車はそれなりに決まっていたんですけど、ちょっとエンジンに不調があるので、これから夜通し治します。本来のドライバーのパフォーマンスを出せるマシンを予選までに用意できなかったのが悔やまれます。今回はあまり順位を気にせず、とにかく完走し表彰台に乗れば100点で、次の24Hレースにつなげられる展開にしたいです。

## 決勝レース1 4月18日(土)12:00～

夜どおしかけてエンジンは修復され、またマシンセットも変更が行われたが、決勝当日、日曜日にはフリー走行は設けられず。最終チェックができなかったことに一抹の不安を残すも、スタートを担当する小河選手曰く、グリッドに着く際の1周で「エンジンは問題なし。加速でウィリーしちゃうぐらい(笑)」と。決勝での巻き返しが大いに期待された。

予選に引き続き、日曜日の鈴鹿サーキットも穏やかな天気となっていた。絶好のコンディションの下、切られたスタートにおいて「DENSO LEXUS RC F GT3」は、ポジションキープとなる4番手からレースを開始する。トップは逃げていく一方で、2番手、3番手の車両は視界に収め続けていた小河選手ながら、我慢の走りを強いられていたのもまた事実。

スタートから1時間11分経過した34周目に、3番手の車両と同時にピットイン。シートは永井選手に託された。ピット作業は素早く、動き出しは先の車両に優ったものの、あいにくピットは最終コーナー寄り。ここでの逆転は許されなかったが、次の周にドライバー交代を行なった車両の前に出ることに成功し、永井選手は3番手に躍り出る。

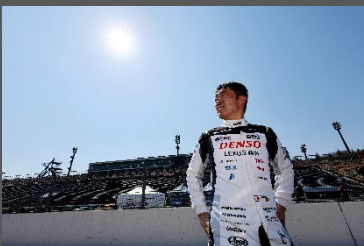
奇しくも第2スティントのST-Xクラスは、全員がADドライバー。交代直後に10秒近くあった差が、みるみるうちに縮まっていく。2分5秒台でコンスタントに周回を重ね、時には2分4秒台にも入れてきた永井選手は好調そのもの。57周目には2番手に上がり、さらにトップとの差も詰めていく。

69周目には、トップと0.2秒差にまで迫るも、時はすでにいい意味でタイムアップ。永井選手がADドライバーに義務づけられた75分を走り抜いたからだ。70周目、「DENSO LEXUS RC F GT3」には再び小河選手が乗り込むことに。直後にヘアピンでストップした車両があり、回収するためFCY(フルコースイエロー)が提示される。このタイミングに合わせたかと思われた車両がトップに立つも、後に60秒ものペナルティストップが課せられることに。

これにより、小河選手はトップに浮上。100周目にはチームベストとなる、2分3秒056を記録して1位ポジションを守り抜いた。そしてゴールまで1時間12分を残した105周目、嵯峨選手にバトンタッチ。ここでいったんはポジションを下げるも、3周後にトップの車両がピットアウトしたのは、「DENSO LEXUS RC F GT3」の目の前。トップ再浮上をかけ、S字でチャージをかけたものの、抜ききれなかったのが悔やまれる。その後、後続車両に迫られ、必死にガードを固め続けていたものの、リヤタイヤが音を上げ、132周目のスプーンで嵯峨選手は3番手に後退。それでも表彰台圏は守り抜いてゴールした。

続く第3戦はシリーズの一番、富士24時間だ。永井選手は欠場となるも、永井秀貴選手がADドライバーを務め、助っ人として阪口晴南選手が昨年に続いて加わる予定となっている。大量得点が可能な一戦であるだけに、悲願成就のためにも大活躍が期待される。





## 永井宏明選手

まあ、なんとか。接戦で、『なんとか優勝できないかな』って頑張ったんですが、まわりも速くて現実が高望みでした。その中で表彰台には上がったのは良かったです。シリーズ争いに、つながったかなと思います。決勝は気持ちよくバトルし、良い走りも出来て、自分のステイントでもう1周あればTOPに出たかもしれないが、そこはガソリンも厳しくなり予定どおりピットに入りました。昨日のトラブルのことを思えば満足できる結果だったと思います



## 小河諒選手

最初のステイントで作られてしまったギャップを、自分がもっと少なくできれば、最後、嵯峨選手にもっと楽させてあげられたと思いますし、永井選手もTOP独走が出来たかもしれません。2回目のステイントは、2回目ということで序盤からいいペースで走れましたが、やっぱりまだ最高峰クラスでのバックマーカの処理というところでは、もっと勉強してアベレージを上げたいですね。ドライビングの一発の速さでは、そこそこ出てきたので、それは良かったんですけど。まあ、総じて昨日からすれば、夜にメカニックの皆さんがすごく頑張ってくれたので、とりあえず表彰台に上がれて本当に良かったですし、これで次の24Hに向けて良い流れが出来たかと思います。



## 嵯峨宏紀選手

う～ん、じたばたしたのですが最後、抜かれちゃったのは残念でした。ただ、1,2位のベントとはペースが全然違ったので、手に負えなかったのかなという感じで。まあ、昨日のトラブルを思えば結果オーライです。車なりのベストは尽くせたと思うし、なぜかFCY中に急に詰められちゃったのも残念、後半リヤタイヤがキツくなっちゃって、だんだんペースを上げられなくなって、それで抜かれたし、最後の数周は結構厳しかった。次の24Hでリベンジ、頑張ります。

## 金曾裕人監督

今の時点のベストは尽くせたが、車のパフォーマンス違いが出てしまいましたね。『まだまだセットは詰められたかな』というところではありますが、正直なところベント2台は別格でした。それは、もうしょうがない。我々の今の限界というか、やれることはやりましたから、そんな悲観的ではないですね。昨日のドン底からのリカバリーはできたし、ドライバー全員ノーミスでしっかり攻め続けて、レースらしいレースが出来た中での3位ですから、『100点』って感じです。このしぶとく諦めない姿勢のまま、24時間に挑みますので乞うご期待！。